

キャン ドウ

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2022年6月 [第98号]



活動の方向性	マラウイでの学校保健活動の形成	永岡 宏昌
報告	ケニア調査	永岡 宏昌
報告	パロンベ県における子どもの健康を守る保護者の活動形成事業	
ひと	マラウイ人スタッフ3人を紹介します	浅利 有紀
ひと	日本人スタッフの自己紹介	浅利 有紀
報告	マラウイでの活動—2022年1月～5月— 2022年度年次総会をオンラインで開催しました	
フォト・レポート	ムロンバ教育区での保健研修と保健リーダーによる学習会	
事務局から		

写真はムロンバ教育区の初等学校での学習会において、子どもの保護について説明する保健リーダー

マラウイでの学校保健活動の形成

代表理事 永岡 宏昌

2019年にマラウイ共和国パロンベ県のムロンバ教育区で始めた学校保健への取り組みは、コロナ禍で期間を2022年3月まで延長して、事業を終了しました。

2022年2月、当会と県教育局ムロンバ教育区教育官、県保健局環境保健官(公衆衛生を担当する県行政官)との協働で、5テーマについて集合型保健研修を実施しました。

当初予定していた、初等学校の既存の保護者組織である母親支援会の委員に加えて、各校の学校保健担当教員、地域で県保健局の業務を補助し各学校も担当する保健助手が受講しました。集合研修は県環境保健官が調整し、研修テーマに合わせて、保健官、看護官、社会福祉官など、県行政を横断して管轄する県行政官が講師を務めました。

そして3月には、全10校で母親支援会委員が1テーマを選んで、学校関係者や一般保護者に発表し質疑を行なう学習会を開催しました。テーマの研修の講師となった県行政官も、監督者として学習会に参加しました。学習会を通して学校保健担当教員や保健助手からの協力を当会は観察しました。

現在、パロンベ県では初等学校保護者から育成した建設リーダーが、さまざまな学校関係者と協力して住民参加による教室建設が主な活動です。次の活動として、パロンベ

県全体で初等学校保護者から保健リーダーを育成することを検討しています。リーダーが子どもの健康、衛生、子どもの保護、性交渉・妊娠予防など広い知識と視野をもって、子どもの健康と安全を保障する活動を日常的に展開することを目指しています。

関係者が中心的価値に着目し自律的な活動を実践するには、副次的利益を慎重に小さくしたほうがよい、と考えるのが当会の活動方針です。県教育局は同意していますが、県保健局はムロンバ教育区における研修の成果にかかわらず否定的です。

県保健局は、保健助手など住民代表に研修を行ない、さまざまなキャンペーンや情報収集などの保健サービスの提供を地域で担ってもらっています。その対価として各種の手当を位置付けているようです。今回の当会の研修は、午後からの3時間として、参加手当も、昼食手当も、昼食や清涼飲料水なども提供せず、交通費は学校から研修会場までの実費を請求してもらい、支払いました。手当・待遇に関する強い不満がありつつ、5回の研修をとおして多くの参加がありました。

当会が目指す自律的で持続的に活動する保健リーダーの育成について、県保健局との相互理解を進めて、同意が得られる活動の形を作りたいと考えています。

報告 ケニア調査—マチャコス郡マシング準郡を訪問

永岡 宏昌

5月20日から6月5日まで、ケニア調査を実施しました。主な目的は、当会が2013年から2018年3月まで活動を展開したマチャコス郡(活動時には「地方」を使用)マシング準郡(同じく「県」を使用)のその後の状況を確認することです。マシング準郡の小学校では、保護者参加による教室の構造補修と建設、教室の周りの土壌流出を防ぐ土留め壁造りを行ないました。地域社会では、準郡の行政官を研修の講師として、保健局と協働で地域保健ボランティア(CHV)を育成し、10の地域保健単位(CHVが中心的な役割)を形成しました。また、CHVによる学校保健活動の促進に取り組みました。

調査には、元スタッフの橋場美奈さんがマチャコス郡で活動しているNGO、ケニアの未来の協力を得て、同団体のスタッフである元調整員のカンダリさんに同行してもらいました。教室補修・建設を実施した小学校や、育成したCHVが活動拠点としているはずの保健センターや診療所の保健施設を事前の連絡なしに直接訪問しました。施設を観察し、責任者に質問、その場で会えたり、連絡が取れたりした関係者への聞き取りを行ないました。小学校では、構造補修や建設した教室、土留め壁が適切に機能していました。当会の活動終了後、公的資金や保護者から集め

た資金で、教室の補修や建設、トイレ造りを行なっている学校もあることも確認しました。保健施設では、多くのCHVに会うことができました。終了後、しばらく無償で活動を続けました。マチャコス郡が保健施設ごとにCHV10名を採用して毎月謝金を払うことになり、熱心に従事していたCHV115名が採用されたそうです。毎週の施設の清掃・洗濯・美化の活動、村での保健活動と毎月の報告、保健キャンペーンなどに取り組んでいます。成果を上げている活動は、保健施設での分娩の促進、予防接種や結核・エイズなどの服薬を途中で止めた村人の説得と接種・治療の再開、コロナ陽性者の家族敷地内での隔離・ケア方法の指導、村の救急患者について看護師に携帯で連絡し救急車の手配と病院への搬送調整、などとのこと。謝金はめったに支払われないという不満はあるものの、CHVは活発に活動し、保健施設は以前とは違って美しく保たれ、活気あるものになっていました。一方、CHVと小学校との関係は、キャンペーンや予防接種など、保健局の計画に沿った訪問に限られているようです。学校での保健活動やCHVの協力などの事例を聞き取ることはできませんでした。

この調査の結果は今後のマラウイ共和国での学校保健の展開に生かしていきます。

報告 パロンベ県における子どもの健康を守る保護者の活動形成事業

マラウイ共和国の初等学校において生徒の中退が多い理由に、高学年では早期結婚・妊娠の問題があります。当会は、保護者が子どもの成長と健康、性に関する知識を身につけて、課題に対処していく活動を促す取り組みを、2019年にパロンベ県で開始しました。2022年に保健研修を実施し、修了した保健リーダーによる一般保護者への学習会の開催を支援しました。

■ 2019年

1教育区での試験的な実施を県教育局と合意し、県教育局長がムロンバ教育区を推薦。教育区教育官と協議して、保護者リーダーと校長への概要の研修、母親支援会委員への5テーマの研修について合意しました。

■ 2020年(4月、日本人スタッフは緊急帰国)

学校保健の専門家と研修の手順書のオンラインでの話し合いを開始。スタッフが教育区の初等学校全10校を訪問して当会の事業を紹介し、基本的な情報を収集しました。

■ 2021年(9~12月、日本人が出張・派遣)

母親支援会委員への研修(5テーマ、各1回の専門家による手順書がほぼ完成。概要の研修(1回)は各テーマの研修を関連づけてまとめる段階には至らなかったため中止しました。11月、県知事が県保健局との協働を提案。県保健局が積極的に希望したため、研修の構成を再検討することにしました。

■ 2022年

県環境保健官の調整のもと、研修の内容に適した行政官による研修を開催することに合意しました。

2月—研修を実施

県保健局とムロンバ教育区教育官と協議して、母親支援会委員(各校5人-50人)に加えて、学校保健担当教員(10人)、各校を担当する保健助手(10人)を研修の対象とすることにしました(計70人)。

2月10日~24日、ムロンバ教育開発センターにおいて、14時から17時の3時間、5回の研修を実施しました。第1回 衛生・水・栄養：講師は副県環境保健官と衛生普及担当官。66人が参加/第2回 子どもの保護：社会福祉官助手。53人/第3回 子どもの発達：社会福祉官助手。59人/第4回 HIV/AIDS：看護官。64人/第5回 リプロダクティブ・ヘルス(性と生殖に関する健康)：看護官。65人。

3月—保健リーダーによる学習会を支援

3月10日~28日、ムロンバ教育区の初等学校全10校で保健リーダーによる学習会が開催されました。計509人の一般保護者が参加。テーマは衛生・水・栄養が2校、子どもの保護6校、子どもの発達2校。母親支援会委員計36人が手順をもとに説明し、参加した行政官が具体的な助言を行ないました。

ひと マラウイ人スタッフ3人を紹介します

調整員 浅利 有紀

ミゴウィ(パロンベ)事務所 調整員助手

○チャールズ(2021年9月~)

記憶力抜群で仕事の飲み込みが早い。話が少々長めだけれど、報告は状況をしっかりと把握して的確。現場でも適切な対応をする。学生時代の成績は良かったようで、得意科目は歴史。最近、結婚した。

○オースティン(2021年11月~)

周りをよく観察し、サポートする意欲が高い。初等学校の教員を目指していた。現場で使われるチェワ語から英語への翻訳が上手

で聞き取りやすく伝えてくれる。背が高く細めで、時々ピンクやハート柄の服で登場する。

○ハリエツト(2021年11月~)

おしゃべりが好きで、周りを明るい雰囲気にする、ムードメーカー。事務作業は少々苦手。大学でフィールドワークの経験があるようで、成長を期待。

*ミゴウィ事務所の調整員クリスティーナとチクンブツォは会報87号、調整員助手ウィリアムとオネスマスは会報94号で紹介。ブランチヤ事務所には、オネスマスが必要な業務で出張。

ひと



日本人スタッフの自己紹介

調整員 浅利 有紀

大学卒業直後、2014年3月から半年間、CanDoでケニアにインターンとして派遣され、地域保健ボランティア(CHV)研修を担当しました。合意形成や、研修参加者選出の集会に連日参加し、研修の途中(全4週の第3週)で派遣期間が終わり、帰国しました。

その後、環境と持続可能性分野の認証機関で、監査員の資格を取得し働きました。環境配慮を掲げた東京オリンピック終了の節目とコロナ禍を経験し、将来にわたり国際協力に携わっていきたい、という学生時代の気持ちを思い出して、転向の可能性を探しました。

CanDoでの再度のインターンに応募し、2021年11月からの国内業務の後、派遣されたマラウイで12月から準スタッフ、今年5月から調整員として仕事をしています。学校保健の活動で、行政官への再度の合意形成、研修、学習会、事業終了後の報告と保護者リーダーの活動のフォローアップなど、短期間で一連の業務ができたことは貴重な経験でした。ブランチヤ事務所での業務が主で、パロンベへの出張が限られていますが、マラウイ人スタッフと協力して取り組んでいきたいと思っています。(写真はブランチヤで)

■パロンベ県 保護者参加による教室

建設—2校で教室棟、7校1教室建設—

□1月

教室棟の1校と1教室の1校で基礎底部造りまで完了。

□2月

教室棟の1校で基礎壁造り、1校で基礎底部造りまで完了。1教室の1校で基礎壁造り、1校で底部造りまで完了。1校で土壌安定化レンガ(SSB)9,000個の作成が完了し、1教室の基礎・床建設を開始。

□3月

教室棟の1校で基礎を土で埋め戻す作業、1校で基礎壁造りまで完了。1教室の1校で床を設置するためにガレキと砂を敷き詰める作業まで完了。

□4月

教室棟の1校と1教室の1校で床の設置まで、1教室の1校で基礎底部造りまで完了。

□5月

教室棟の1校で追加のSSB製作を開始、1校で床の設置が完了。1教室の2校で基礎壁造り・土壌を戻す作業まで完成。

■ムロンバ教育区 学校保健

□1月～3月 p.4参照

□4月

10校の保護者リーダーを訪問し、2回目の学習会についてフォローアップ。

□5月

保護者リーダーによる2回目の学習会が5校で実施されました。

ムロンバ教育区での保健研修と保健リーダーによる学習会



①



②

①集合研修1日目：衛生・水・栄養—副県環境保健官が説明

②5日目：リプロダクティブヘルス—看護官の説明の後、参加者がモデルにコンドームを装着



③2日目：子どもの保護—グループ・ワーク



④保健リーダーによる説明の後、参加した保健助手が衛生について助言

報告

2022年度年次総会をオンラインで開催しました

3月26日(土)、Zoomを使用しオンラインで2022年度年次総会を開催しました。一般会員45人のうち29人が出席—書面および電磁的方法による表決9人、表決委任8人—一定款の定足数「3分の1以上」を満たして成立。事務局長佐久間典子がオンライン会議なので議長を務めることを諮り、全員異議なく選任されました。審議の結果、第1号議案 2021年度活動報告・会計報告、第2号

議案 2022年度役員改選、第3号議案 2022年度活動計画・予算案が承認されました。

役員改選では、理事7人—國枝信宏、佐久間典子、鶴田伸介、永岡宏昌、中沢和男、藤目春子、明城徹也／監事1人—加藤志保／準理事2人—國枝美佳、満井綾子が再任。井本佐保里理事が任期終了で退任しました。任期は2024年3月31日までの2年間。

事務局から

報告

◇組織

○3月5日、2022年度第1回理事会をZoomを利用したオンラインで開催。2022年度年次総会の議案について審議し、決定しました。

○3月26日、2022年度年次総会をZoomを利用したオンラインで開催しました(詳細はp.6参照)。第2回理事会を開催し、互選により代表理事として永岡宏昌を選任(再任)。

◇支援

○2月8日、外務省と「パロンベ県初等学校保護者参加による教室建設事業」第2年次の日本NGO連携無償資金協力の贈与契約を締結。限度額は28,717,970円。事業期間は2022年2月10日～2023年2月9日。

○2月9日、第1年次が終了(2021年2月10日～)。

○3月31日、公益財団法人日本国際協力財団国際NPO助成による「パロンベ県における子どもの健康を守る保護者の活動形成事業」が

終了(2019年4月～2020年3月31日の予定を2年延長)。

○3月31日、公益財団法人大阪コミュニティ財団の前田哲基金による「マラウイ共和国パロンベ県で教室建設に取り組む初等学校へのSSB製作機の貸与」(2021年4月～)が終了。

◇国内活動

○3月19日、報告会「マラウイでの教室建設事業の1年目を終えて」をZoomを利用したオンラインで開催。事業責任者を兼任する代表理事永岡宏昌が報告しました。

人の動き

○5月1日、浅利有紀が準スタッフから調整員に昇格。

○5月20日～6月5日、永岡宏昌がケニアに出張。

■次号は2022年9月に発行の予定です。

CanDo アフリカ [第98号]

2022年6月21日発行

発行人:

永岡宏昌

編集人: 佐久間典子

発行:

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)
〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室

電話:

03-3822-1041

電子メール:

tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト:

<http://www.cando.or.jp/>

facebook page:

<http://www.facebook.com/candoafrica>

郵便振替:

口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会